



Team Dainan

八千代市立大和田南小学校
《校長室だより》
令和3年度 第43号
令和4年 3月 1日

3 すべての人に
健康と福祉を



SDGs 3 すべての人に健康と福祉を

～福祉教育 出前講座「心のバリアフリー」～



2月14日(月)と2月18日(金)に、八千代市社会福祉議会地域振興課地域づくり係の皆様をお呼びし、福祉教育出前講座「心のバリアフリー」を行いました。今回の学習で4年生に学んでもらいたいことは、大きく次の2点です。

○福祉って何だろう？

○自分たちにできることは何だろう？ です。

2月14日(月)の学習では、八千代市で行われている福祉について、具体的な事例をもとにお話をしてくださいました。

2月18日(金)の学習では、実際に「車いす体験」と「白杖体験」を行いました。福祉についてのお話を聞くだけでは「障害をもっている人は大変だなあ」「私は健康でよかったなあ」という感想にとどまってしまう。そこで、昇降口付近を車いすで通ったり、実際に目隠しをして校舎内を歩き、簡単な介助を体験したりする活動を行いました。普段当たり前のように通っているところでも、体験することで気づくことがあります。

絢愛さんは感想の中で「(白杖体験をして)中央廊下の途中の『ぼこっ』というところがびっくりした。」「(車いす体験をして)段差のところが手伝ってくれる人がいないと上がれないし、へこんだりしているところは大変」と書いていました。

今回の学習を通して、障害をもつ人を同じ地域に住む隣人として理解し、最終的には子供たち自身が地域のバリアフリーや自分たちにもできることがあることに気づき、行動に移すことができるように目指していきたいと考えています。

子供たちがお話を聞いたり、体験を通したりして、どんなことを学んだのか感想をいくつか紹介いたします。(抜粋)

○社会福祉協議会の人々がやっていることは、どれもみんなが幸せ(福祉)になることばかりだった。小学生(4年生)でもできることがあったから、ボランティアセンターに行って、ごみ拾いをしたり、赤い羽根共同募金にも参加したりしたいと思った。ペン(ユニバーサルデザインのペン)の話は、最初変な形だとはかかっていなかったけど、手や足の不自由な人にとっては、書きづらかった形の鉛筆よりも書きやすいのだと思った。障がい者と言っても私たちと同じだと思った。私もできないことがあるけれど、障がい者もできないことがあるから似ていると思った。(結愛さん)

○福祉って国語の勉強の「便利ということ」と似ているなあと思いました。福祉協議会の方のお話を聞いているときに、私はハッとしました。おじいちゃんが車いすのとき、一人で行けるようにドアの段差のところに坂をつけたりして工夫していたなあと思いました。福祉は、一人一人がいろいろな人のことを助け合い、自分ができることは何かないかと考え、実行したらSDGsの福祉を達成できるのではないかと思います。(莉美さん)





○自分も困っている人を助けたいと思った。他にも、ごみ拾いなど町の役に立ちたいと思った。

(一聡さん)

○今まで手すりで遊んでいたもので、これからは手すりの意味を考えていきたいです。自転車に乗っているときは、点字ブロックの上を走っていたので、これからはしっかり違うところを走りたいです。

(悠さん)

○(目隠しをして歩くのは)とても恐怖心を覚えた。ガイドの人なしで、一人で行動するのは絶対無理!!ガイドさんに感謝しかない!もし、車いすや白杖を持った人を見つけたら、押してあげたり、肩を貸してあげたり、いろいろなサポートや手助けをしてあげたいと思った。(皓大さん)

○(白杖体験では)階段がすごく怖かったです。(ガイドが)しっかりと教えないとけがをしてしまいます。壁に白杖を当てて、階段を通ると少し安心できることを知りました。目の見えない人がもっと安全に生活できるような世界を作りたいなと思いました。(ひなたさん)

○車いすも白杖もこれから自分、家族、みんなが使うかもしれない。自分がそうになったら普通にちゃんとできるようにしたいし、まわりの人がそうになったら、迷わずすぐに助けてあげたい。障がいをもっている人を差別するのは、本当にやってはいけないことだと思いました。障がいをもった人のために以下のことをしたいと思いました。

- ・白杖の人などに状況を教える。
- ・白杖を持った人のガイドをする。
- ・車いすを指定されたところまで押す。
- ・障がいをもった人に声かけをする。(啓太さん)



○昔、車いすの人が段差を登れなくて困っていたけど、助けていなかったから、これからは、車いすに乗っている人が困っていたら、助けてあげようと思いました。(真帆さん)

○白杖体験では、階段を上るときよりも降りるときの方が怖かったです。目の不自由な人は、本当にすごいなと思いました。ちょっとでも段差があると震えて怖かったけど、ペアのれん君のおかげでちょっとは落ち着いてできました。階段を降りるときも、のぼるときも「せーの、せーの」と言ってくれてすごく安心しました。(果鈴さん)

○目が見えない体験をしました。怖かったけど、サポートしてくれる人がいて、ものすごく安心しました。でも、目が見えなかったから、階段の上り下りが特に怖かったです。電車のときなどに目が見えない人に気づいて少しでも行動に移したいなと思いました。

(幹奈さん)

(幹奈さん)

2月28日には、オンラインで、実際に障害をもっている方々からお話を聞くこともできました。

子供たちは、これまでの学習を通して、自分たちにもできることがあることに気づき、行動に移そうという気持ちをもつことができたのではないのでしょうか。

